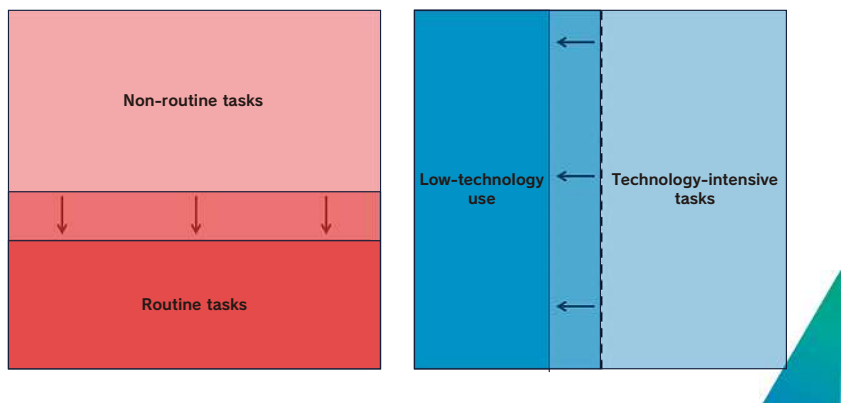


図表 教えるのが簡単なものは、デジタル化と自動化が容易に



出所：2024年3月13日講演資料から抜粋

教育とスキルの未来

OECD教育・スキル局長 アンドレアス・シュライヒャー

AIが突き付ける新たな課題

気候変動やコロナ禍などが、われわれの暮らしや教育に様々な変化をもたらしている中、自らの意欲や能力を新たな環境に適応させることが重要になっている。

とりわけAIの出現は新たな課題を突き付けている。人間が知識を記憶する必要性は薄らぎ、教えやすい事柄や簡単に調べられる事はデジタル化・自動化がたやすいことから、今後、定型業務が大幅に減る一方で、技術集約型のタスクがますます増えていくと考えられる。そうした中、AIに適切な問いかけができる力が重要になる。AIが人間に置き換わるのではなく、AIを使いこなせない人間が、AIを使いこなせる人間に置き換えられるのである。

日本の教育の強みと課題

未来の経済社会を形成していくうえで一助となるのが教育である。未来を見据え、教育制度をどう設計していくべきかについて、最近の調査結果を紹介したい。OECDが実施している「生徒の学習到達度調査」(PISA: Programme for International Student Assessment)の最新の結果によると、日本は、学業成績で強みを発揮している一方で、情緒面でのレジリエンスや心理的なウェルビーイングでは諸外国に劣っている。未来を見据えると、認知的にも社会的にもレジリエントであることが、より一層重要となる。様々な変化に適応し、考えたことを行動に移していく力を身に付けることが非常に重要である。また、「学校が休校になっても自分で学習に

未来を見据えた教育と企業への期待

れるようになることが望ましい。そのような学習環境の実現にあたっては、マイクロクレデンシャルの仕組みを整備し、雇用主がその価値を認識することが重要である。マイクロクレデンシャルは、学修単位を蓄積でき、かつ、ポータブルである必要がある。すなわち、一つの企業で使えた学修単位は、別の企業に移しても使えるものでなければならぬ。この点で、シンガポールは、政府が全ての学習者に投資し、学習者が自ら学ぶ環境を決定する仕組みとして、良いお手本といえる。マイクロクレデンシャルは国際的な潮流になっており、生涯学習を促すうえで重要な役割を担っている。

取り組むことに自信はあるか」との問いに対し、日本の子どもたちは肯定的に回答する割合が低い。この傾向は成人でも同様であり、日本は学校卒業後の生涯学習への参加率が低く、自律的に学習する意欲や自らの学習を管理する能力において課題が見られる。

スイス、デンマーク、ノルウェーといった国々では、ジョブフェアを通じて、学生たちが実際の職場を体験している。一方、日本ではそうした機会が少ない。学校は現実社会と距離があるため、学校においては現実世界が見えない。企業がインターンシップ等を通じて職場を見せることで、生徒は社会で求められるスキルを認識し、未来を見据えて戦略的に学習するようになる。



現行の教育制度では、大学側が学ぶべきことを定めて学位を授与するなど、教育機関が学習者に対して優越的な立場にある。しかし、未来を見据えると、「何を、どこで、どのように学ぶのか、また、人生のいつの時点で学ぶべきか」を、学習者個人が主体的に決めら

学習における技術の活用

教育分野へのコンピューターやAIの導入により、学習が個別化され、子どもたちの興味を引き、退屈を防いで双方向性を持たせることで学習進度が速まるなど、学習スタイルは多様化している。上海では、教師による授業よりAIを用いた授業の方が、正確な情報が得られ学習効果が上がったと言われている。韓国では、デジタル教材によるバーチャルリアリティ(VR)が新たな学習手段として力が発揮しており、勉強が楽しいと感じる生徒が増えている。また、現実の世界では危険な職

業訓練や技術訓練も、拡張現実(AR)を駆使することで可能となっている例もある。加えて、授業の分析ツールの活用によって、教師がデータに基づく教育活動を行えるようになっており、フィードバックが得られることにより学習効果の向上が期待されている。

学習に技術を活用する際には、学習と評価を統合することが重要である。近年の教育における最大の誤りは、学習と評価を切り離した点である。長年にわたって若者に学習指導を行い、国家試験等により能力を確認する方法では、学習者が創意工夫や独創性を発揮できない。学習と評価を統合し、教育活動に落とし込んでいくことで学習の改善が期待される。

ただし、技術の活用と成績との関係性はまだ不明確である。技術の使い方が鍵であると考えられるものの、それは、結局のところ教師の手腕にかかっている。技術は知識の伝達に優れているが、教育においては社会性や関係性も重要であり、教師が生徒をうまくサポートし、生徒を理解することで、生徒に自信が育まれる。技術と学習の間で良い関係を築くには、教師の役割が重要である。

(注)マイクロクレデンシャル：学位取得を目指す学修よりもさらに細かく区切られた学修単位で、大学などの主体が個別に認証するもの

(本稿は、2024年3月13日、経団連会館で開催した懇談会における講演内容を抜粋のうえ、経団連事務局が作成)